

子宝和安 子育て世代の方へ 子育て・教育に関するお知らせ



子育て支援センターからのお知らせ

子育てに関する講座や講習会、育児相談などを行っています。申込みが必要な場合がありますので、各ホームページを確認いただくか、問合せください。

▼対象 0歳から就学前の子どもと保護者・妊娠中の方
▼時間 平日 9時～14時

あそびのひろば（当別地区）

▼内容 絵本の読み聞かせ・わらべうた、エコバック作り、バランスボール
▼問合せ 子ども未来課子育てサポート係（ゆとり内・☎25-2658）



町ホームページ

おとぎキッズ（太美地区）

▼内容 ヨガ、絵本の読み聞かせ、ぱくぱく教室、巾着作り、おひなさま制作
▼問合せ 認定こども園おとぎのくに（☎26-2353）



おとぎのくにホームページ

令和7年度 保育施設利用三次募集受付中

令和7年4月から保育施設の利用を希望される方は「教育・保育給付認定（保育の必要性の認定申請）」と「入所申込」の手続きが必要です。詳しくは町ホームページをご確認いただくか、問合せください。



町ホームページ

▼三次募集期間 2月3日（月）～2月28日（金）
※三次募集後は、入所希望日の2か月前から申込みできます。

▼申込み先・問合せ

- ・子ども未来課子ども係（ゆとり内・☎23-3024）
- ・認定こども園当別夢の国幼稚園（☎23-2381）
- ・認定こども園おとぎのくに（☎26-2353）

令和6年度 絆づくりメッセージコンクールの結果について

絆づくりメッセージコンクールは、青少年からいじめやネットトラブルの根絶を目指し、より良い人間関係づくりを呼びかけるメッセージを募集するものです。

今年度、石狩管内では1,322作品の応募があり、選考の結果、次の方が入賞しました。

小学生・個人の部

●奨励賞

寺尾 愛咲さん（とうべつ学園・6年）
『言葉は希望になるし刃にもなる。』

中学生・個人の部

●最優秀賞

トルペル 江海留さん（とうべつ学園・9年）
『我慢する覚悟より、相談する勇気。』
※この作品は全道優秀賞にも選ばれました。

●奨励賞

坂下 華音さん（西当別中学校・1年）
『本音を話せる人こそが、本当の友。』



写真中央左から寺尾さん、トルペルさん



写真左が坂下さん

▼問合せ 学校教育課学校教育係（☎23-2689）

児童手当の申請はお済みですか

2月7日に、新制度に基づく2回目の支給を行います。高校生までの児童を養育しており、まだ手続きを行っていない方は福祉係まで問合せください。

なお、令和7年3月31日までに申請がない場合、遡及しての児童手当の支給ができない場合があります。

▼提出先・問合せ 保健福祉課福祉係（ゆとり内・☎23-3019）

広 告

広 告

子どもプレイハウス入所受付は2月28日まで ～利用方法が変わりました～

子どもプレイハウスでは、これまで通りの通年利用のほか、長期休業期間のみの利用ができるようになりました。

令和7年度通年利用または令和6年度学年末休業・令和7年度学年始休業の入所希望者は、2月28日までに申込みください。申込期限を過ぎると、利用開始が遅れる場合や、定員に達して利用できない場合があります。夏季休業および冬季休業の入所受付は別途ご案内します。詳しくは町ホームページをご覧ください。



町ホームページ

	令和7年度通年利用	令和6年度学年末休業 令和7年度学年始休業
対象	1ヵ月に15日以上かつ連続して2ヵ月以上、保護者が就労等のため家庭で保護できない児童	長期休業期間に、週3日以上、保護者が就労等のため家庭で保護できない児童
期間	令和7年度通年利用 令和7年4月1日～令和8年3月31日（日曜・祝日・年末年始を除く）	令和6年度学年末休業 令和7年度学年始休業（日曜・祝日を除く）
時間	学校登校日：放課後～18時 土曜日等：8時～18時 ※18時～19時は延長保育時間となり別途利用料が発生	長期休業期間：8時～18時 ※18時～19時は延長保育時間となり別途利用料が発生
料金	保育料：月額 2,000円 保護者会費：月額 2,000円 保険加入料：年額 800円 延長利用料：1回 300円（月額上限2,000円）	保育料：期間額 500円 保護者会費：期間額 500円 保険加入料：年額 800円 延長利用料：1回 300円（期間額上限2,000円） ※期間中の入退所に対して、保育料・保護者会費の減額や返金はありません。

▼場所 当別子どもプレイハウス（とうべつ学園内）
西当別子どもプレイハウス（西当別小学校内）

▼定員 各100名 ※通年利用者と長期休業のみの利用者を合わせた人数です。

▼申込期限 2月28日（金）

▼申込方法 各プレイハウス、子育てサポート係窓口、町ホームページで配布している申込書に必要書類と保険料を添えて申込みください。

▼問合せ 子ども未来課子育てサポート係（ゆとろ内）
☎ 25 - 2658

巡回児童相談を実施します

18歳未満のお子さんの発達の遅れ、療育手帳の判定などの相談をお受けします。

▼日程 4月21日（月）

▼場所 ゆとろ

▼定員 2名程度

▼相談員 北海道中央児童相談所 児童福祉司・心理判定員

▼申込期限 2月17日（月）

▼問合せ 子ども未来課子育てサポート係（ゆとろ内）
☎ 25 - 2658



図書館からのお知らせ



当別町図書館企画展 第52弾は 2月22日は「ねこの日」ねこ&動物特集

人気のあるかわいい動物が大集合！

▼期間 2月28日（金）まで

▼問合せ 当別町図書館（☎ 23 - 0573）、当別町図書館西当別分館（☎ 26 - 3300）

新着図書

当別町図書館【一般書37冊、児童書35冊】

- ・「常盤団地の魔人」（一般書）佐藤 厚志
- ・「ざんねんな兵器図鑑 魔改」（児童書）世界兵器史研究会

当別町図書館西当別分館【一般書26冊、児童書18冊】

- ・「架空犯」（一般書）東野 圭吾
- ・「オレ、なんにもしたくない」（児童書）デヴ・ペティ / マイク・ボルト / 小林 賢太郎

広 告

広 告



当別町と宮城県大崎市岩出山との深いつながり



令和5年6月24日、宮城県大崎市岩出山において、当別町3校と岩出山小学校・中学校の2校を結ぶ姉妹校締結式が盛大に行われ、今後さらに友好関係を発展させていくために姉妹校提携協定書が結ばれました。今回、宮城県大崎市岩出山と当別町の歴史的に深いつながりの一部を紹介します。

激動の明治初期において、当別の開拓は数少ない成功例でした。当時まだ蝦夷地と呼ばれていた北海道は、未開で謎だらけの地でした。約150年前の明治初期に、仙台市の近くの岩出山の当主（伊達邦直公）は、独眼竜「伊達政宗」直系の子孫で、1万5千石の領主でした。しかし、戊辰戦争に敗れたことで領地が65石に減封されただけでなく、賊軍の汚名まで着せられてしまいます。領地の減封により760名の家臣を養うことができなくなりました。東北の名誉ある伊達一族である邦直公が、家老の吾妻謙の意見を聞き入れて取り組んだのが、北海道の開拓でした。

教育委員会では、姉妹校締結式の前に当別歴史ボランティアの方と一緒に、伊達邦直公の足跡がある奈井江町と石狩市厚田区にある聚富を訪れました。

明治3年2月移住地調査のため、邦直公は家臣6名を率いて函館に渡り、徒歩や船を使い2か月かけて、小樽の開拓出張所にたどり着きました。そこでナエイ（現在の奈井江町）の土地の開拓許可が下りました。途中、野宿するなどの困難を極め、10日間かけてナエイに到着し調査しました。しかし、ナエイは石狩河口からはるかに遠く、運輸の便は悪く、約700名の主従が住むには土地が狭く、開拓が困難と判断し、家臣2名を残し、岩出山に帰りました。

私は奈井江町にある「伊達邦直公上陸の地」の石碑を目の前にしながら、邦直公自らが家臣6名だけを引き連れ、命がけて厳冬の北海道の地を訪れたことなど、決死の覚悟を感じずにはいられませんでした。

その後、さらに開拓使に懇願し、当初から要望していた海岸近くの土地の開拓の許可を得ることができました。その土地が厚田郡シップ（現在の石狩市聚富）です。当別の肥沃な土地への入植までには、まだまだ数多くの試練が待ち受けています。

明治3年9月、邦直公は家臣を「有備館」に招集して、北海道の地で開拓に従事する移住者を募りました。その際、邦直公は、自身の体験をもとにしながら、北海道の大自然の中で、開拓がいかに困難であり、結束する勇気と覚悟が必要であること。そして、開拓資金の調達のことなどを包み隠さず伝えました。そして、移住の決意について、次の3つの条件を提示しました。それが、「1. 自主裁断であること」「2. 心身強固な者であること」「3. 家族同伴であること」でした。

この3つの条件からもわかるとおり、北海道に新たな土地を求め、岩出山には戻らない並々ならぬ覚悟を感じます。だからこそ、最初の調査も殿様自らがその土地を見て、家臣と同じ苦労を噛み締めながら開拓を行う必要があったのではないのでしょうか。

明治4年3月、第一移住者180名がまだ雪深い荒涼としたシップの大地を目指します。苦難の道のはおよそ1か月に及んだそうです。一行はここに草小屋を建て、作物の種を蒔きましたが、土地が痩せていて種が芽吹きませんでした。更なる新天地を求めて開拓使に懇願します。そして、実に肥沃な土地である当別の開拓の歴史が始まります。

歴史の紹介はここまでですが、当別への入植後すぐに鮎田塾を開設し、子どもたちの教育に力を注ぎました。「教育のことは一日もゆるがせにできない」として、目下の課題である開拓を推し進めながらも、次の未来を切り拓く人材育成に着目した歴史は、確実に今、当別の希望の未来に引き継がれています。

広 告

広 告